



南の躍動

令和7年度 第1号



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和7年7月8日

呼吸するように

大島教育事務所長 別枝 昌仁

「見つめる 思いをめぐらす 向き合う」は、本県教職員が児童生徒に向き合う上での基本姿勢を表すキーワードです（令和4年度版人権教育研修資料参照）。

「見つめる」とは、ささいな変化でも気付くことができるよう、共感する力やイメージーション力を高め、教職員間で情報を共有しながら子供をしっかりと見つめること。「思いをめぐらす」とは、子供に対して受容と傾聴の姿勢で関わり、情報収集力を高め、関係者と連携しながら、その言動の原因（背景）を探ること。「向き合う」とは、教職員がチームとして問題解決力や指導力を高め、子供と一緒に課題を取り除くこと。そして、これらの姿勢が一体的に実践されることで、支援が必要な子供は守られ、その心が前向きに導かれることにつながります。

前段落の「子供」の部分は、「保護者」や「地域住民」、「教職員」などに置き換えることが可能です。全ての教育関係者が、それぞれの立場でいつでも確実に「見つめ、思いをめぐらせ、向き合う」ことができれば、様々な場面で救われる人や生かされる人は増えていくものと思います。

先日、ある方から聞きました。「これらの基本姿勢を意識しなければならないようでは不十分だ」と。確かにそのとおりだと思います。ただ、この姿勢をいつでもどこでも貫き通すことは容易ではないとも思います。私自身のこれまでを振り返ると、「見つめる」力が不足していたり、「思いをめぐらす」心の余裕を失っていたり、「向き合う」姿勢が欠けていたりしたために、相手を傷つけてしまった経験は少なくありません。また、地区内でこれまでに報告された悲しい出来事のほとんどは、もし「見つめ、思いをめぐらせ、向き合う」姿勢が当事者によって確実に実践されていたれば、避けられたものだとも感じています。

できて当たり前のことを、取り立てて意識することなくできるようにしていくこと。常に自己を振り返り、精度を高めながらこの基本姿勢を習慣化していくこと。大島地区の全ての人々のために、呼吸するように「見つめ、思いをめぐらせ、向き合う」教職員であり続けるよう、ともに努めていきましょう。

全ての児童生徒が安心して学べる環境づくりの推進

全ての児童生徒にとって、学校が安全で安心して楽しく通うことができる環境となるよう、学校関係者が一丸となって取り組むことが求められています。

本地区で掲げている生徒指導の重点推進事項は、次のとおりです。

- 1 いじめ・不登校・問題行動等の未然防止，早期発見・早期対応
- 2 生命尊重に関する指導の充実
- 3 基本的生活習慣の確立



1, 2は、アンケートや外部人材の活用によって実現が可能です。例えば、「学校楽しいと」は、発達支持的生徒指導の視点を含め、より具体的、多面的な分析ができるよう観点が見直されました。「関わり」「教室の安心」「充実と満足」「いじめ」の4分類の上位尺度を設定し、それぞれに観点を設けて、計10観点でより具体的に児童生徒の学校適応感を把握することができます。

「学校楽しいと」を含め、様々なアンケートで得た結果は、児童生徒からのメッセージです。受け取ったメッセージを具体的な支援へと結び付け、心理的安全性の高い学校環境の醸成につなげたいものです。同時に、SCやSSW、関係機関との連携を図り、「チーム学校」として児童生徒のニーズに応じた対応を図っていきましょう。



県総合教育センター
「学校楽しいと」

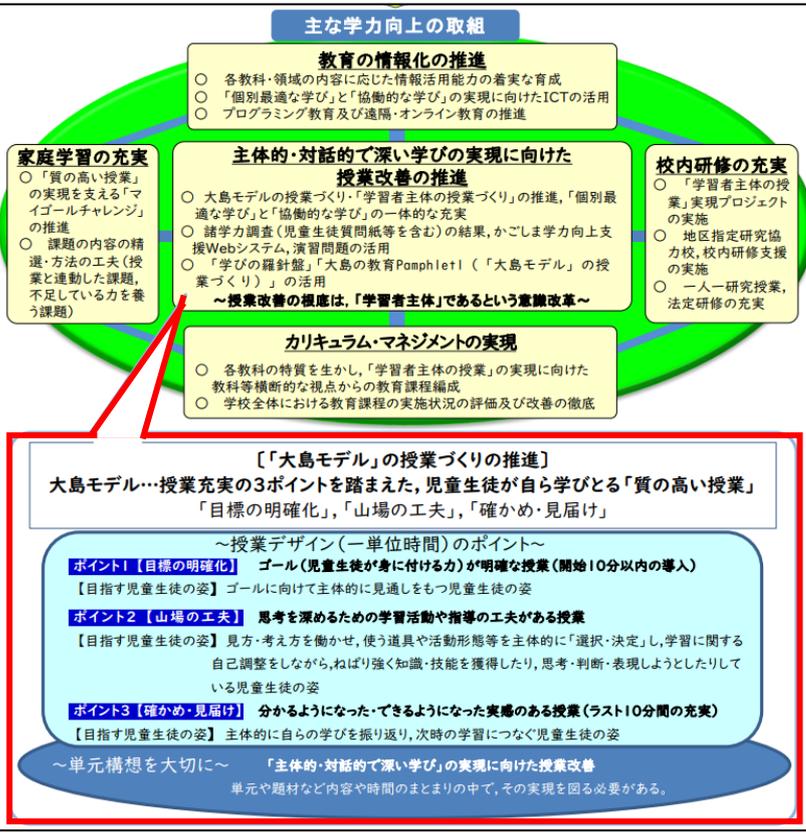
学力向上プロジェクト～単元構想を大切に～

児童生徒が自ら学び取る「質の高い授業」を実施するには、「目指す児童生徒の姿」を明確にして単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した授業づくりを行っていくことが重要です。

また、一単位時間の授業においては、「授業充実の3ポイント」を意識してデザインし、「目指す児童生徒の姿」を明確にしながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っていくことが求められています。

子供が自ら「問いを発見する」「解決の方法を見通す」「課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する」「自らの学びを振り返り、次に生かす」といった活動に取り組める授業を実践していきましょう。

なお、単元構想を大切に
した授業づくりを推進していくために、HP掲載の指導略案を改訂予定です。



「家庭学習マイゴールチャレンジ」の充実

県では、従来の「家庭学習60・90運動」に代えて、学習の質を重要とする観点から、児童生徒が自分で目標や内容、進め方等を決め、目標の達成に向けた家庭学習に取り組むことを目指して、「学習者主体の授業」と連動した「家庭学習マイゴールチャレンジ」の取組を始めています。以下の参考に、家庭学習の更なる充実を支援していきましょう。

【学校での取組について（例）】

- ・ 授業において、学んだことを日常生活に結び付けて考える場面を設定する。
- ・ 記録用のカード等を作成し、児童生徒が自ら計画を立てて取り組み、その振り返りが行えるよう支援する。
- ・ 授業の振り返り等で今日の家庭学習の計画を立てる時間を設定する。



【家庭との連携について】

PTA活動の場や通信等を活用して家庭からの理解と協力を得る必要があります。その際、「かごしま家庭教育ナビ」等の資料が参考になります。学校と家庭とでマイゴールチャレンジのポイントや進め方等を共有し、保護者とともに家庭学習充実に向けてサポートできる環境を整えていきましょう。



かごしま家庭教育ナビ

学びを広げ深めるICTの活用を

令和6年度全国学力・学習状況調査のクロス集計から「課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している傾向が見られる」ことや「その両方に取り組んだ学校の児童生徒は、それ以外の学校に比べて、各教科の正答率が高い」ことが明らかになっています。児童生徒がICTによって学びを広げ深めたと実感できるように、児童生徒自身が必要な時に効果的にICTを文房具として利用できるように活用を期待しています。



【タイトル横の写真】夏になると紫色の鮮やかな花を咲かせる「オナガエビネ」（天城町教育委員会提供）